

(生活科・総合的な学習の時間)

「大阪市の最南端 荻田南からの発信！

地域とつながり進んで行動する子どもたちの育成」

—協働的に学ぶ生活科・総合的な学習の時間を通して—

大阪市立荻田南小学校

1. 研究主題設定の理由

本校では、これまでの生活科・総合的な学習の時間において、地域に関する学習を2年生と3年生にて行ってきた。その中で、地域の「もの」「こと」については知るものの、地域の「人」については、児童が知っていることは少ないことが分かった。一昨年度の全国学力・学習状況調査の児童質問紙では、「地域の行事への参加」や「地域や社会への貢献」など、地域との関わりに関する項目についての肯定的な回答は、全国平均に比べて低い結果であった。地域の「もの・こと」のよさは、「人」の温かさや思いやりに支えられていることを理解し、自ら関わっていかうとする態度を養っていくことが必要であると考え、生活科・総合的な学習の時間を研究教科とし、研究主題を「『地域とつながり、進んで行動する子どもたちの育成』～協働的に学ぶ生活科・総合的な学習の時間を通して～」と設定した。

2. 研究の趣旨

本校の児童の実態として、学習対象のところに実際に行ったり見たりするなど本物に触れる活動が好きであり、一人一台学習者用端末を活用して友だちと共に学ぶことができるが、自分の考えを持ち、それを文章に表したり、大勢の人の前で伝えたりすることについては、苦手である。そこで、地域に関わる児童の認識の実態を踏まえて、「地域とつながり、進んで行動する力」と、「協働的に学ぶ力」を育成することを研究の軸に据えることとした。また、生活科・総合的な学習の時間は、各教科等での学びと密接に関連していることから、それを生かせるように単元配列を考えるようにする。そして、各学年の学習計画において探究のサイクルが明確になるような一覧表を作成する。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 各教科等との関連的な指導

- 各教科等で身に付けた資質・能力を生活科・総合的な学習の時間に生かすことができるように単元配列を考える。
- 単元配列表を作成し、各教科の学びを生かすことができる学習内容に対して、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の3つの柱別に矢印でつなぐ。

視点② 学習計画における探究サイクルの明確化

- 総合的な学習の時間においては、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表

現」の探究のプロセスがスパイラル状に連続していくように計画する。

- 生活科においては、「体験」と「表現」の学習の流れがスパイラル状に連続していくように計画する

視点③ 友だちと協力して主体的に学習活動に取り組む子どもを育てる

- 学習に積極的に取り組ませるだけでなく、学習後に児童が自らの学びの成果や過程を振り返り、次の学びに主体的に取り組む態度を育むようにする。
- 自分の考えを持つために、＜人・もの・こと＞にしっかりと触れられる時間を設ける。
- 協働的な学びにより、自分とは異なる考え方に触れ、個々の学びを深められるようにする。
 - ・多様な情報を活用し合う。
 - ・異なる視点から考え合う。
 - ・力を合わせたり交流したりする。
- ポスターやリーフレット、発表などに「まとめ・表現」することにより、それまでの学習活動を振り返り、自分の考えを再考できるようにする。
- ICT 機器を活用し、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現、発信を行うようにする。
- インタビューや見学などを行う際に、ICT 機器を活用するのかどうかについては、状況に応じて適切な方法を選ぶことが大事であることを理解できるようにする。

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

- 各教科等との関連的な指導については、各教科等での学びを生活科・総合的な学習の時間どのように関連付けて学習を進めるかを考えることができた。
- 生活科・総合的な学習の時間での学びを各教科等に生かしたり、生活科・総合的な学習の時間での学びを行うために必要な学びを各教科等に求めたりすることで、双方向的に学びを行うことが重要であることが分かった。
- 探究サイクルを明確化させるために、学習計画のすべての過程における「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の内容を記載する表を作成することができた。
- 地域の＜人・もの・こと＞の本物に触れる機会をしっかりと確保することができた。
- まちの人とのつながりをつくることができた。
- 情報を整理・分析する際に、思考ツールを効果的に活用できるようにした。
- Google Jamboard や、Sky Menu、Microsoft Excel などの協働学習支援ツールを活用することにより、「協働的な学び」が充実し、発達段階に応じた情報活用能力を育成することができた。
- 学級の友だちや地域の方、他校の児童へ対面やオンラインの形式で発表する機会を持つことができた。
- 「情報の発信」の手段として、一人一台学習者用端末を活用してデジタルにまとめ、伝える学習活動に多く取り組むことができた。

(2) 今後の課題

- 自分の考えを持つための具体的な方策をさらに考えていく。
- 思考ツールの活用方法をより一層考えていく。